

日本災害看護学会先遣隊令和元年台風第19号活動報告

活動期日：2019年10月14日(月・祝)

活動地域：千葉県館山地方 被災地域

活動者：山崎 達枝、城戸口 親史、福島 芳子

活動目的：

- 1) 10月12日発生した大型台風第19号の被災状況を把握する。
- 2) 僅かの1ヶ月間に(9月9日令和元年台風第15号)2度の大きな災害に遭遇した、被災者の衛生状態と心身の健康状態、および支援ニーズを把握する。
- 3) 上記1)・2) から必要な支援を考え、支援につなげる。

活動の実際：

10:40 【館山市災害対策本部訪問】

台風19号の被害状況を確認した。河川の氾濫はなく、訪問時の停電は、4,800軒であり、復旧は、10月16日の見込みであるとのことであった。避難所の開設状況は、10月12日 2,342人/1,192軒、10月13日 19人/6軒(避難所数2カ所)であった。10月11日(金)までに張ったブルーシートは台風19号の風で剥がれている状況が確認された。必要な物資として、ブルーシートが700枚必要であるが、14日朝には400枚届いていた。

地区避難所はすでに閉鎖され、多くの住民が避難所から自宅に戻り、避難所に残っている住民は台風15号の時から避難者であった。自宅へ帰った人の中には、台風15号の影響でブルーシートの貼られた家に帰っていた。雨の影響で住民たちが、家の片づけが出来ない状況になっている。

継続支援の必要な方をピックアップし、保健師等がすでに巡回を始めている状況であった。

担当者によれば、台風15号よりも台風19号の方が風雨は弱く、被害が少なかった。住民たちの中には、台風15号よりも台風19号の方が弱いという雰囲気になっていたり、大丈夫そうと思っている人がいる様子であるとのことであった。しかし、傷んだ家が台風19号と本日の雨によりさらに傷んでいくと考えていた。

11:20 公民館と一人暮らし住民の住宅を巡回

健康調査票、携帯電話を預かり、館山市内で被災の大きかった公民館と一人暮らし住民の住宅を巡回した。

12:10 公民館において地域ボランティアの方と面会

地域ボランティアの方によれば、今回は想定内の状況であった。9月に続き2回目の台風であったため、停電の予測、ブルーシートが飛ばないように対策を講じている家庭もあった。しかし、今後は、カビの生えた自宅での生活がどのようになっていくのかが気になる。今必要な支援としては、長期使用に耐えるブルーシートおよびシートを張る職人が必要である。停電が長期化した時には今後必要な支援として、炊出しが必要となる。この地区の特徴として、周囲に遠慮し支援を求めない方も多いため、身体的、精神的サポートのために見守り隊の様な支援が必要になってくる。台風15号の後の振り返りができていないなか、台風19号に見舞われたため、今後、地区内での振り返りが必要となってくると考えている。

13:10 一人暮らし住民宅への訪問

「台風15号の片づけが終わらないうちに台風19号が来た。台風19号の方が被害は少なく、事前の対策のお陰で雨漏りもなかった。家屋の修繕が何時になるかわからないため、ブルーシートでの補強等自

分で行うしかない。今後の生活の見通しが立たない。」とのことであった。

14：35 館山市災害対策本部において、訪問先で得た情報および状況を報告した。

15：10 【鋸南町災害対策本部訪問】

15：35 保健福祉課訪問

保健福祉課担当者によると、台風 15 号よりも台風 19 号の方が風雨は弱く、被害が少なかった。避難所を開設したが、避難者数は 9 名で、10 月 13 日には避難所は閉鎖され、その後保健師による巡回訪問を実施している。

住民は自宅に戻り、家屋の修理業者を待っている状況である。住民票の移動はまだないが、家族の元や友人宅への移動、施設入居、被害の無かったアパートなどを探している人がいる。町としては県営住宅への手配を行っているが、コミュニティーを大切に思う人も多い。

停電は部分的で、病院の停電はないが、高齢者施設は電源車で対応できている。保健医療関係は大きな問題はなく対策ができています。

家屋対策として、住民に対して通気性の確保、エタノールを配布し、使用方法についてはチラシを作成し保健師から説明を行った。

16：20 【鴨川市災害対策本部訪問】

台風 19 号による停電は 10,000 軒、訪問時 4,000 軒まで減少していた。

16：40 鴨川市健康推進課訪問

鴨川市健康推進課によると、市の対応として、12 日昼から全職員出勤、13 日、14 日は 3 分の 1 から 3 分の 2 の出勤体制で対応している。

台風 15 号よりも台風 19 号の方が風雨は弱く、被害が少なかった。避難所利用者は 955 人、避難所数は 21 カ所（うち 1 カ所は母子避難所）開設したが、14 日 16 時で閉鎖となった。台風 15 号を経験し、台風 19 号が来る前から住民は、各々準備をしていた。そのため、断水地域への給水車の配車は行ったが、住民から物資が必要という言葉は少なかった。台風 19 号に関しては県の対応も早く、発電機等必要な準備が整った。

現在は、14 日中に地域巡回も終了した。今後は避難行動要支援者要介護者でケアマネージャーの関与していない住民を優先した対応や乳幼児支援を優先し巡回している。インフルエンザによる学級閉鎖のあった地域があったため、避難所開設時に問い合わせもあったが、早期に避難所が閉鎖となったため、今後流行状況を確認していく予定である。

課題：

今後の課題として、高齢者世帯でのカビ対策の消毒の実施が難しく、天井裏や高所に手が届かないため転倒の恐れがあるために工夫が必要になる。

また、台風 19 号では母子避難所を開設したが、入所者の範囲をどこまでとするのか等の検討が必要であると考えている。3 年前から地域医療機関、警察、消防、学校、保健所と協力し訓練を行っており、今年度は台風 15 号が来る 2 日前に実戦さながらの訓練を行っていたため、今回の台風ではその経験が活かしたと考えている。

本日の所感：

1) 僅か1ヶ月間で大型台風15号19号の到来が続いた。従って住民のストレス状況が大きい様相があった。また、地域の中で頑張る地域ボランティアの負担が大きくなっているのではないかとと思われる。今後は、地域ボランティアへのフォローが必要ではないかと考える。

2) 15号の突風で自宅の瓦屋根などが飛ばされ、雨漏りとなったことから、カビが生え始めた。現在もそのような自宅で生活をしている住民の健康状態を調査・把握する必要があると思われる。